登場人物

サフィアン・レグリス——プロヴァンス侯爵

ゲヴュルツト・シュマイヒェンハイト——アルザス出身の紳士

レイソン・ヴィンヤード——ポーイヤックの大商人
シルヴィア——亡き妻
オスティリア——娘
ピエレット——オスティリアの乳母

ジョルジュ・ミード——ソーテルヌのブドウ農園主
ミリアーナ——妻
シティーズ——娘
コリーヌ——シティーズの乳母

タイヤダン——ペサックレオニャンのブドウ農園主
デミエ——妻
アヴリーヌ——長女
リセ——次女

クロード——サン・テミリヨンの商人
マドレーヌ——妻
サリエット——息子
クレア——メリスの乳母

マルサンヌ——ポムロールのワイン商人の娘。
ルーサンヌの新妻
ルーサンヌ——コート・デュ・ローヌのブドウ栽培
兼ワイン醸造家の息子
マルサンヌの夫

リュイファール——クロードの所有する猟場の密猟管理人
クウィンス——妻
ノワール——息子

ロンダン・ファンベル——ポムロールのブドウ農園主
フレーズ——妻
レヴィン——息子
アルジル——下男

アトモス牧師——ペサックレオニャンの教会の司祭

教会の書記人、楽隊、召使たち
観客一同——ヴィンヤード邸の庭園の芝生

場所

1742 年頃のボルドー

＊舞台は内舞台と外舞台とバルコニーを使用。

以上

第一幕

第一場

サリエット:　良い・・・結婚式だったね。君の恋した人は今までで一番美しかった
——それは恋があこがれに変わってしまったからでもあるのだけれど——。

レヴィン:　うん・・・。最も尊い人が儚くなられたときに聖人と称えられるように、
マルサンヌもまた、純白の儚さをまとうことで天使の輝きを得たんだ。

サリエット:　その光を浴びて、参列したすべての人が恍惚の中で彼らの幸せを祈って
いたね。君は何を祈ったかい？

レヴィン:　君と同じさ。

サリエット:　それでこそ僕の親友だ。

ファンベル　・・・残念だよ、レヴィン。お前があんなに薄情な人間だとは思わなかった。
マルサンヌにとっては人生で唯一と言っていい晴れ舞台で、口が張り裂ける
くらい笑顔になるべき日だったのに、お前一人の気持ちを察して彼女は
肖像画のように上品な微笑を浮かべるだけだった。
　気付かなかったとは言わせないよ。どうして祝ってやれないんだ？
大好きな幼なじみがこれから幸せになろうという時に！
祝いの席で黙る者は去りなさい、辛くても笑わなければならない事もあるんだ。

フレーズ:　——あなた、おなかのお酒をそんなに熱しては蒸気が頭を締め付けますわよ。

ファンベル:　あいたたた。
とにかく私は今日のお前を息子とは認めない。明日は一人で家に残ってブドウ
畑の手伝いをしていなさい。お前の分は私が祝ってくる。
少なくとも顔色の面では遠縁のたかり屋といい勝負をし、諂いに関しては圧倒
してみせるよ。おやすみ。

中央扉より退場。

二人:　おやすみなさい。

フレーズ:　マルサンヌを失いましたか？

レヴィン:　はい。穏やかな季節は僕だけを残して移り変わってしまいました。
　　アルジルは咲かせた花は摘まなければならないと言いましたが、唯一の花を摘まれてしまった僕は空の花壇を前に立ち尽くすよりありません・・・。

第二場

レグリス:　あいたたた。ご無体はやめてください、オスティリア嬢。
　我々は使い古しの酵母ではないのです。

ノワール:　そうですとも。祝儀を贈って押し出しを喰らうなんて、こんなしょっぱい話がありましょうか？
　私たちはあなたに猫だましを差し上げた覚えはありませんよ。

オスティリア:　いいえ、私は騙されました。お二人は私の主人になるべくここを訪れたと仰言いましたのに、この数か月の間に――侯爵に至っては私が十五の時から――なさったことと言えば封建家臣のようにただ誠実で、契約義務をそつなくこなすばかりです。
　そのような野暮ったいお話はもうたくさんですの。

レグリス:　それはあなたに母君と同じ思いをさせたくない一心からそうしたまでです。
　ために私はーダースも諸国を駆け回り、今回などはボルドーでも買える青ピーマンを求めて香辛料戦争真っ只中のインド洋を突き進み、オランダ船やポルトガル人に雇われた海賊船にしつこく追い回されながら、死線を越える思いでようよう持ち帰ったというのに、あなたにはマタタビの価値とも受取ってもらえないとは卒倒しそうです。

ノワール:　お察しします。理性をたたえた高貴なお顔も、もはや御苦労を隠し切れないといったご様子です。
　　動物的な香りと強いタンニンが魅力の男性的なボディーは長年の心労と熱帯の蒸し暑い空気によってまるで燻した樽の裏側を見るように深いシワが刻まれ、すっかり気抜けしています。
　そうしてみるとごま塩頭が樽に付着したフジツボに見えてもはや漂流物の

体を免れません。
　――おい､オスティリア！　慰められている方が慰めている人よりも血色が良いというのはどういう事だ？

オスティリア:　残念だわ。愛を注いだグラスにもラベルを貼っておかれたら
私もそのように味わいましたのに。
もっとも、受け取り手の教養に期待する愛なんて、頭が舌に味を教えて
得意になっている白ワイン飲みに等しいですけど。
　さようなら、お二人は私の最も望むものを与えてはくれませんでした。

第三場

シュマイヒェンハイト:　素晴らしい・・・。やはりここぞという空間には思い切って
何か美しいものを配すべきです。
ルイ十四世のごとく儀礼的で堅苦しかったゴシックの骨組みが、
新しい女王シャンデリアの即位によって華々しく若返り、
天地の広場を埋め尽くす国民は頬をバラのように上気させて
彼女を称えています。
　ためにオフ・ホワイトの壁も省みてマダムの優美なシルエットを
投影するに至り、負けじと咲き誇る生花の介添えを仰せつかる
あの水差しも、シティーズ嬢の美しい声紋をどうにか記録しようと
見事なレリーフを浮かび上がらせたのでしょう。
　これぞ美の調和です！

シティーズ:（コリーヌに傍白）　あの方にはもうダンスのお相手がいらっしゃるようよ。
私たちには見えないけれど。

コリーヌ:（同じく)呼吸も何もありません、互いの袖口が縫い合わされているので力一杯振り回します。

第四場

ノワール:　今ばかりは君の親愛が僕を責めたてる。泣いてしまえと言われて流す
この涙は解放感からなのか、あるいは喪失感からなのか・・・。
それを見極めるまではどうか慰めないでほしい。

レヴィン:　ごめんよ。君への共感があまりに速く絞り出されて心の桶をいっぱいに
するので、つい発酵を急いでしまった。
水蒸気よ、胸の天井に当たって戻れ――ともに泣こう、ノワール。

アルジル:　魔女を相手に尻の操を守り通せただけ儲けものでした。
おかげで坊っちゃんを尻目に見ずに済みます。

ノワール:　かといって茶化されると、これを失恋と認めたくない自分が猛り始める。
ああ、こんな目に遭うくらいならクロードさんの紹介を待っていれば
よかった・・・。

アルジル:　どちらにしても澱(おり)が飲まれることはないのでした、ちゃんちゃん。

第二幕

ピエレット:　せっかちな流れ星は流れ落ちるまでに三度唱えられた願いしか
叶えられないそうです。そのような見栄っ張りにお嬢様の切実な願いを
聞き届けるのは到底不可能なことでした。

ミード:　無帽の男が我々の狩猟本能をくすぐりながら走ってくるぞ。

シティーズ:　そういった方も人はイノシシと呼ぶわね。

ファンベル:　男の子ですからね、一時間もすると飽きてしまって、手づかみで捕らえ
ようと川に入ってしまったり、落ちウナギのように期待を孕ませて川を泳ぎ
下っては一回り逞(たくま)しくなって帰ってきます。
その誇らしげな顔や色濃く深まった絆などを見るのが何よりの釣果なんです。

ミード:　うんうん。いや、うらやましいお話です。あなたは息子を持つ楽しみを
余すところなく味わっていらっしゃいますね。
素晴らしく私の趣味を掻き立てます。

ノワール:　思い涙に渇いた舌が潤いを求めて愛を探す。覗き込む泉に映るは
我であるのか、腹心の友であるのか？　敗れし恋に今再び愛を捧げん。
・・・とは言うものの、やはり命は惜しい。

今オスティリアに出くわしたら僕は睨み殺されてしまうだろう。
――それが悩殺であったなら聖ヴァンサンの酔いどれ石像と並ぶボルドーの語り種となっただろうに――。
　ダメだ、そこのオークの陰に隠れてヴィンヤードさんを待つとしよう。

内幕の後ろに隠れる

　あっ、こちらからいらした。お一人ではないようだ。
・・・あれはサフィアン侯。ああ、僕はあの方の御顔を見ると泣いてしまいそうになる――胸の谷間をより深くする傷が、開かぬようにと懸命に肉を引き寄せるから――。
（胸を鷲掴みにしつつ） 保ってくれよ、レヴィンはもっと深い傷を抱えながら僕のために頑張ってくれているんだ。

シルヴィア:　お食事は摂られましたか？　給仕人の話では近頃サンドウィッチしか召し上がっていらっしゃらないそうですけれど。

ヴィンヤード:　あれは素晴らしい料理だ。古代ローマにしても北欧にしてもイングランドにしても、海に強い国はどこもあの料理を主食に採用している。今世紀に入ってからのボルドーの隆盛を鑑みると今まで採用されてこなかったのが残念でならない。

(C)2013 Seita.Mogami, All Rights Reserved.